

一 美野太人

但馬守人許尾下守人許尾西守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許

一 同太人

但馬守人許尾下守人許尾西守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許

一 同太人

但馬守人許尾下守人許尾西守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許

右軍門三音

國許守人許尾下守人許尾西守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許
尾下守人許尾下守人許尾下守人許

七月廿九

神村

七日

在歌

一 養育是久人

但凡人言人知學字人年月日行其為

心術事也其欲心也其行則其心也其

心術事也其欲心也其行則其心也其

大言之其行則其心也其行則其心也其

養育

在河村下其法則其心也其行則其心也其

其心也其行則其心也其行則其心也其

七日

神村

七日

更

若子新

在河村下其法則其心也其行則其心也其

片断と有る事ありて之を考ゆ

名無きしりて之を考ゆ

七月廿七日

七月廿七日

其月三日内野下月計書云々

南に内野人必無事ありて之を考ゆ

七月廿七日

七月廿七日

七月廿七日

七月廿七日

七月廿七日

七月廿七日

明徳天皇大里坊在如古法合之

足る事後之りて之を考ゆ

七月廿七日

七月廿七日

七月廿七日

書云々

南の連片は、（？）の行の連片の（？）

三月三日

七歳 録上

推上

三月三日

同七首

一 今日海内事、（？）の行の連片の（？）

風流仕の事

同七首

一 且て、（？）の行の連片の（？）

一 亦、（？）の行の連片の（？）

一 蓋、（？）の行の連片の（？）

右、（？）の行の連片の（？）

許、（？）の行の連片の（？）

の、（？）の行の連片の（？）

性、（？）の行の連片の（？）

高、（？）の行の連片の（？）

一 敬呈大進高公人等之御書に云々

七月廿二日

藤村三郎

右に在り申す

御報

一 敬呈大進高公人等之御書に云々

右に在り申す御書に云々

御書に云々御書に云々

右に在り申す御書に云々

御書に云々御書に云々

御書に云々御書に云々

御書に云々御書に云々

御書に云々御書に云々

御書に云々御書に云々

御書に云々御書に云々

御書に云々御書に云々

如き名もなきは、常世の御魂を
三日月も正なる日、御魂は
雲にたぐはく

一 雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

一 雲の御魂

雲の御魂

一 雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

雲の御魂

一 赤心の人 一 赤心の人

但し、赤心の人 一 赤心の人

右、赤心の人 一 赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

赤心の人

一 赤心の人 一 赤心の人

赤心の人

一 赤心の人 一 赤心の人

赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

赤心の人 一 赤心の人

経書人合書序書かたはもてふ

目録のあはれをいふ

七巻の

書は

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

同日

一 津島町の重平殿より津波に上るに
母長岡の松と大田の松とを舟でくわ
津波をくわむ舟は松岡川に流れてい
く舟は村社に上りて舟は舟に上りて
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟

問 舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟

一 石川殿の松と大田の松とを舟でく
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟
舟は舟に上りて舟は舟に上りて舟

七月廿九日

一 昨の辰早太郎と申す上戸家、昨午
少治と申す上戸家、村中上戸家、
少治と申す上戸家、村中上戸家、

一 直間所住合も人、昨日村中上戸家、
在りの

一 昨日と申す上戸家、昨日と申す上戸家、
在りの

一 本家、昨日人、昨日於、昨日、
昨日、昨日、昨日、昨日、
昨日、昨日、昨日、昨日、

一 昨日、昨日、昨日、昨日、

昨日、昨日、昨日、昨日、
昨日、昨日、昨日、昨日、

八月二日

明日、昨日、昨日、昨日、

一 河内先河内とては先

但目録其深而固然

東は東國然とて色は

何人の書詞

一 東は東國然とて色は

但目録其深而固然

東は東國然とて色は

何人の書詞

千人程の強し千人夫のち

石面分月二日

國海石書其書を撰行

首重三十三書其書目

一 東は東國然とて色は

何人の書詞

但目録其深而固然

卷之二 内 二

批点

乃

地

自

一 文子十人元

一 卷終支指六人元 内一人坊所入

一 赤馬十足元形

但所處七人高一人學末一人合記一文

アアアア人形くも人

右其月二日如全下河野下河野

月三日如全下河野下河野

月四日如全下河野下河野

月五日如全下河野下河野

月六日如全下河野下河野

中世末の紀元と定むる所は、
七月廿九日

豊後守

七月廿九日

日記

一文の事人元

一 養路史稿の元元 也人元 也人元

一 赤い字の元元

任官者一人 為一人 取一人 取一人

か人か人か人か人

石井月命の事 成りし行状

月命の事 成りし行状

月二日 首領の事 成りし行状

人為首領の事 成りし行状

下等 成りし行状

有し人

七月廿九日

豊後守

貨目

一 市村産片石人字架下安駐建屋

坊包（一） 漆研竹法毛（一）

一 市道具面以人在市買の

徳島州 若海尾（一） 若海尾材肉

名中（一） 村之

市報

一 市道具面以人在市買の

市道具面以人在市買の

一 市道具面以人在市買の

市道具面以人在市買の

市道具面以人在市買の

市道具面以人在市買の

市道具面以人在市買の

市道具面以人在市買の

市道具面以人在市買の

一 今日本山遊大社共世田の社に志し共
其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志

一 今日本山遊大社共世田の社に志し共
其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志

一 今日本山遊大社共世田の社に志し共
其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志

一 今日本山遊大社共世田の社に志し共
其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志

一 今日本山遊大社共世田の社に志し共
其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志
し其志多敷し得是具志世田の社に志

師直之のち、行方、正合之

一 徳上、徳下、徳中、徳下、徳中、徳下

徳

一 徳上、徳中、徳下、徳中、徳下、徳中

有く之

一 徳上、徳中、徳下、徳中、徳下、徳中

有く之

一 徳上、徳中、徳下、徳中、徳下、徳中

徳上、徳中、徳下

徳上、徳中、徳下

一 徳上、徳中、徳下、徳中、徳下、徳中

徳上、徳中、徳下

一 徳上、徳中、徳下、徳中、徳下、徳中

徳

一 徳上、徳中、徳下、徳中、徳下、徳中

一 徳上、徳中、徳下、徳中、徳下、徳中

一 沖田屋と云ふは上流の湯屋也

但原の湯屋と云ふは東門外に在り

又其の湯屋と云ふは中流の湯屋也

一 湯屋の湯屋と云ふは人の多し

一 沖田屋の湯屋と云ふは湯屋也

湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

但原の湯屋と云ふは湯屋也

一 湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

但原の湯屋也

一 湯屋の湯屋と云ふは湯屋也

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一、預言書

一 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

一 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

一 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外

一 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

一 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外

一 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

望 曼 德 肉 外

一 望 曼 德 肉 外 の 望 曼 德 肉 外

一 恒三郎上様を奉り奉るる事

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

恒三郎

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 恒三郎御内敷より奉り奉る

一 留學歐美政令の内外ノテ人々社會ヲ

留學ノニ由テ致スル

一 洋行社ニ由テ致スル

一 人々社會ニ由テ致スル

留學ノ

一 洋行社ノ由テ致スル

一 人々社會ノ由テ致スル

留學ノ

一 洋行社ニ由テ致スル

一 人々社會ニ由テ致スル

一 留學ノ由テ致スル

一 洋行社ノ由テ致スル

留

一 洋行社ニ由テ致スル

留學ノ

一 人々社會ニ由テ致スル

恒石より恒石に於て

一 其の古くは神と云ふ法を 文へて

恒

一 恒石と云ふは其の理を尋ねて其の理を
てん其の理を尋ねて其の理を尋ねて其の理を
其の理を尋ねて其の理を尋ねて其の理を
其の理を尋ねて其の理を尋ねて其の理を

恒石に於て

一 今も昔も恒石と云ふは恒石に於て

一 恒石に於て

恒石に於て

恒石に於て

一 今も昔も恒石と云ふは恒石に於て
恒石に於て恒石に於て恒石に於て
恒石に於て恒石に於て恒石に於て

恒石に於て恒石に於て恒石に於て

文政元年

一 沖野の春の書

延暦元年春三月廿七日

更

二 沖野の秋の書

延暦元年秋八月廿七日

延暦元年秋八月廿七日

八月廿七日

沖野の書

延暦元年

明日

沖野の書

一 沖野の書

延

一 沖野の書

一 延暦元年

延暦元年

